

2 0 2 5 年 4 月 1 1 日

新 宿 区 長 宛て

団 体 名 NPO 法人 SAYi
所 在 地
東京都中央区勝どき四丁目 4 番一 2 号— 5 0 3
(フリガナ) サトウ キヨタカ
代表者氏名 代表理事 佐藤 清貴

新宿区協働推進基金助成金交付申請書

新宿区協働推進基金条例施行規則第 5 条の規定により、下記のとおり助成金の交付を申請
します。

記

助成金申請額 金 2 9 4 , 0 0 0 円

申請事業の分野（該当の分野 1 つだけに○をしてください。なお、活動分野が複数の場合は、主要な分野に○をしてください。）					
保健・医療・福祉		災害救援		情報化社会	
社会教育		地域安全		科学技術	
まちづくり		人権擁護・平和		経済活動	
観光		国際協力		職業能力開発・雇用機会拡充	
文化・芸術・スポーツ	○	男女共同参画		消費者の保護	
環境		子どもの健全育成		市民活動支援	
その他（ ）					

助 成 事 業 計 画 書

団体名	特定非営利活動法人 SAYi
事業名	性について語り合える場づくりプロジェクト ～SAYi in 新宿～
① 事業目的・事業概要	<事業目的> 性やジェンダーに関する悩みや不安を、安心して語れる社会をつくることを目的とする。パートナーとの性の悩みやセックスレス、子どもへの性教育、フェムテック、自己決定権といったテーマに関心を持つ区民に対し、安全で開かれた対話の場を提供し、多様な価値観が尊重される地域社会の実現に寄与する。誰もが「話してよかった」と思える空間づくりを通じて、性にまつわる孤立や誤解を減らし、共生と自己尊重の文化を育む。 <事業概要> 新宿区内にて、月1回以上の対面交流会（レンタルスペース）、月2回以上の Zoom 交流会、さらに個別相談（新宿区内カフェ等）を実施。交流会では性やジェンダーに関するテーマごとの少人数対話を実施し、個別相談では専門カウンセラーが1対1で対応する。参加者からの声を元に柔軟にテーマを設定。また、広報活動として Google 広告・SNS・区施設でのポスター掲示を行い、特設ホームページで情報発信と寄付・相談受付体制を整備。活動は単発で終わらず、寄付や連携によって継続・拡大を目指す。
② 地域課題・社会的課題	性に関する悩みや不安を抱えている人は多いものの、タブー視されがちな側面もあり、それを安心して話せる場は非常に限られており、孤立感や心理的負担を抱える区民、国民が一定数存在している「隠れた社会問題」であると考える。 例えば、2022年のNHKの調査によれば、夫婦の約47%が「セックスレス」状態にあると回答しており、特に20～40代でその傾向が顕著である（NHK「人間性調査2022」より）。また、国立社会保障・人口問題研究所のデータによれば、離婚件数の増加要因の一つとして「性格の不一致」に次いで性に関する価値観のずれや満足度の低下が挙げられている。 一方で、2024年に本団体が実施した参加者アンケート（有効回答数 125件）では、以下のような結果が得られている： 「日常生活で性の話題について安心して話せる場所がない」：86% 「家族やパートナーとの性に関する悩みを抱えている」：72% 「イベント後、気持ちが軽くなった・相談先を得たと感じた」：98% これらの結果は、性に関する悩みを開示できる場の不足と、それに伴う孤立・不安の深刻さを示している。また、新宿区は都内でも特に多様なライフスタイル・背景を持つ人々が集まる地域であり、多様性ゆえの摩擦や孤立が発生しやすい地域でもある。 現時点で新宿区には、性に関する個別相談を日常的に受けられる公的な窓口は限られており、ジェンダーや性の悩みを安心して話せる場づくりは喫緊の課題である。

③課題解決のための取組	性に関する悩みを安心して話せる場の不足という課題に対し、区民が気軽に参加できる少人数制の交流会や個別相談の場を定期的に提供することが重要であると考えます。 特に、パートナー間のコミュニケーション不全や、性教育への不安、性に関する情報へのアクセス困難といった課題には、日常的で柔らかい場づくりが必要である。 そこで本事業では、新宿区内のレンタルスペース等を活用して、月1回の対面交流会を実施し、テーマに応じた対話型プログラムを展開する。また、月2回のオンライン（Zoom）交流会も開催し、外出が難しい方や育児・介護中の方の参加も可能とする。 さらに、相談しづらい個別の悩みに対応できるよう、新宿区内のカフェ等を用いた対面個別相談枠を新設する。 こうした継続的な取り組みにより、性に関する悩みを日常的に共有できる文化を育み、孤立の防止や心理的安全性の確保につなげることを目指す。
④先駆性・専門性	本団体は、「性に関する対話の必要性」を国内外の視点から深く捉えており、その点において高い先駆性と専門性を有している。 代表者は外務省元外交官として各国の文化や教育現場を経験し、特に海外の性教育と比較して日本の性に関するコミュニケーション不足や孤立の深刻さを痛感したことが活動の原点である。多様な国で培った知見と視野を活かし、日本特有における性のタブーを乗り越える実践的な場づくりを構築している。 また、構成役員には、心や身体に関する専門的な知識を有するセラピスト資格保有者が所属しており、自身の離婚・セックスレスなどの経験を持つことから、机上の理論ではなく当事者視点の共感的な支援が可能である。 本団体はすでに2023年の発足以来、対面・Zoom 含め40回以上の交流会・相談会を開催しており、延べ300名以上が参加し「誰にも話せなかったことが話せて救われた」といった好意的な感想も多数寄せられている。 その活動実績に基づき、今後は先進・国際都市である新宿を拠点として継続的に実施していく意義が大きい。 さらに、参加者の中にはフェムテック事業者や性教育に関心を持つ当事者が多く、今後の業務協力やボランティア参加につながる支援ネットワークの広がりも見込める。 以上のように、個人の経験・知識・国際的視点を融合したユニークな専門性と先駆性を発揮できる体制を有しており、本事業の実施にふさわしい団体である。

⑤ 具体的な活動 内容 (イベントが複数ある場合は、こちらのページを複写して作成してください)	I イベント（会議）の開催予定等
	1. イベント（会議）名：(性について語る対話会（対面）) 2. 活動内容： 性やジェンダーに関するテーマ（例：パートナー間の性、セックスレス、性教育、フェムテックなど）について、少人数でのグループ対話を行う。心理的安全性を重視した空間で、参加者同士が安心して話し合える場を提供 3. 実施期間、回数： 令和7年6月～令和8年3月（月1回、全10回予定） 4. 実施場所： 新宿区内のレンタルスペース等 5. 周知（募集）方法、期間： Google 広告、SNS、jimoti ホームページ、チラシ配布（新宿区内掲示板・区施設にて） 6. 対象者・定員数： 性や人間関係に悩みを抱える区民・在勤者（定員 各回10～15名） 7. 人員・スタッフ数 団体構成員（3）名 講師等（必要に応じ1）名 アルバイト（ ）名 ボランティア（ ）名 8. 安全対策等： ①会場にプロジェクターを設置し、テーマ・注意事項・進行内容を視覚的に提示 ② 司会進行は理事が担当し、対話の秩序と安心感を確保 ③ ファシリテーターが常駐し、参加者間のトラブルや発言偏りを防止 ④ 必要に応じて専門講師（医師・保健師・フェムテック関係者など）を配置 ⑤ 会場は換気・除菌対応済の新宿区内レンタルスペースを使用 ⑥ 参加者は事前申込制とし、目的を把握したうえで対応 ⑦セクハラ・出会い目的の行為は禁止し、違反時は参加中止・出入り禁止とする

	Ⅱ イベント（会議）の開催予定等
	1. イベント（会議）名：（性の悩みを語る ZOOM 会） 2. 活動内容： 性の悩み等についてオンラインで気軽に語れる場を提供。Zoom のブレイクアウト機能を活用し、少人数対話を実現。カメラ・音声 OFF 参加も可能とし、参加のハードルを下げる。 3. 実施期間、回数： 令和7年6月～令和8年3月（月2回、全20回予定） 4. 実施場所： オンライン（Zoom） 5. 周知（募集）方法、期間： ホームページ、SNS、jimoti, Peatix 等のイベントサイト 募集期間：開催日の4週間前～前日まで 6. 対象者・定員数： 幅広い年齢層の新宿区民および必要に応じ区外希望者（定員 各回10名程度） 7. 人員・スタッフ数 団体構成員（3）名 講師等（必要に応じ1）名 アルバイト（ ）名 ボランティア（ ）名 8. 安全対策等： ①Zoom ミーティングにはパスコードと待機室を設定し、部外者の無断参加を防止 ②カメラ・音声 OFF 参加 OK とし、プライバシーに配慮した環境づくりを徹底 ③参加申込時に目的・同意事項を確認し、不適切な参加者の排除を徹底 ④ファシリテーター（理事または運営スタッフ）が進行・モニタリングを行い、荒らし・ハラスメント対策を実施 ⑤録音・録画は禁止とし、違反時は強制退出措置 ⑥参加後に簡単なアンケートフォームでフィードバックを回収し、継続改善に活かす ⑦必要に応じてオンライン相談対応ができる専門スタッフを配置（例：保健師・臨床心理士等）

	Ⅲ イベント（会議）の開催予定等
	1. イベント（会議）名：（性の悩みに関する個別相談会） 2. 活動内容： 対面・ZOOM 会では話しづらい、または多人数の場での発言にためらいがある方に向けて、1 対 1 での個別相談の機会を提供する。パートナーとの性の悩み、セックスレス、性に関する不安、子育て中の性教育の悩み、自身の性のあり方についての葛藤など、より深く個人的な相談内容に対応する。新宿区内の落ち着いたカフェや個室スペースにて実施し、必要に応じて専門のカウンセラーや医療・性教育に関わる講師が対応する。話すことで「心が軽くなった」「一人ではなかった」と感じられる時間を提供する。 3. 実施期間、回数： 令和7年6月～令和8年3月（1 ヶ月 10 枠、年間最大 100 回を予定） 4. 実施場所： 新宿区内のカフェ、個室付きレンタルスペース等（参加者の希望と相談内容に応じて選定） 5. 周知（募集）方法、期間： SAYi 公式ホームページ上の専用予約フォームから随時受付 交流会・イベント・チラシ等で QR コードを掲載し案内 募集期間：常時受付、希望日時に応じて調整・実施 6. 対象者・定員数： 性や人間関係の悩みを個別に相談したい新宿区民・在勤者等 （定員：1 名／1 枠 × 最大 100 枠） 7. 人員・スタッフ数 団体構成員（各回 1）名 講師等（必要に応じ各回 1）名 アルバイト（必要に応じ各回 1）名 ボランティア（必要に応じ各回 1）名 8. 安全対策等： ①完全予約制・1 対 1 の個別相談形式で実施し、相談目的を事前に確認 ②実施場所は静穏・安全が確保されたカフェや個室スペースに限定 ③異性間相談時には同性スタッフの同席または見守り体制を検討 ④利用者には事前に利用規約へ同意してもらい、セクハラ・出会い目的等の行為を禁止 ④相談内容の記録は最小限かつ適切に保管し、プライバシーを厳守 ⑤万が一のための緊急連絡体制・相談員報告フローを団体内で整備

⑥ 期待される効果	ア 区民や地域社会への成果・効果 ①性に関する悩みや不安を安心して話せる場が新宿区内に継続的に設けられることで、心理的な孤立感の軽減と、心の健康の向上が期待される ②保護者・教育関係者・若者など幅広い区民層が、性教育やジェンダーについて学ぶきっかけとなり、家庭や学校内での前向きな対話が増える ③新宿区内のレンタルスペース・カフェ・企業・フェムテック事業者などと連携しながら実施することで、地域経済・地元企業とのつながりも生まれる ④他 NPO 法人や福祉関係団体と協働し、「性を話せる場」が地域資源として定着する可能性がある ⑤区民参加型の交流・相談・発信の場を通じ、共生社会・ジェンダー平等の機運を地域全体で醸成していく土台をつくる
	イ 現状や課題に対する成果・効果 ①対話の場が不足していた「パートナー間の性の悩み」「性教育の不安」「自己肯定感の低下」などの課題に対し、具体的な支援策（相談・学び・対話）を提供することで課題を緩和 ②従来のイベントでは参加しづらかった人（恥ずかしさ、個人的事情など）に向け、個別相談枠を通じて“自分ごと”として向き合える支援を実現 ③新宿区の多様性・国際性ゆえに生じる「文化や価値観の違いによる性の孤立」に対応するため、多文化・多世代を意識したテーマ設計を実施 ④現状、自費・ボランティア的に行っていた活動を助成により安定化することで、持続可能な課題解決の仕組みとして定着を目指す
⑦ 今後の展望	本事業は単発的なものではなく、今後も団体として一生涯をかけて継続していくべきライフワーク的なテーマと捉えている。性に関する対話の場を日常的に持つことは、心の健康・人間関係・家庭・教育すべてに関わる社会基盤であり、今後はさらに幅広い層へ届けていきたい。 特に、今後は青少年・学生世代に対する性教育や自己肯定感の育成にも力を入れ、学校・保護者・地域が連携して対話できる仕組みづくりを行っていく予定である。その一環として、国の関連機関（厚生労働省・文部科学省・こども家庭庁等）や、性教育に関する海外 NPO・教育機関との情報共有・連携にも積極的に取り組みたい。 本助成期間内には、寄付機能付きホームページの強化や SNS 運用の拡充、参加者や協賛企業とのネットワーク形成など、将来的な資金確保につながる基盤整備を進める。イベントの一部有料化や、個別相談の継続的な寄付モデルへの転換も検討しており、助成終了後も自走できる体制づくりを目指す。 また、将来的には本事業を他地域・他自治体にも展開可能なモデルケースとして育て、新宿区から始まった活動が全国・国際的なムーブメントにつながるよう取り組みを継続していく。

⑧ 過去にこの助成を受けた実績	助成年度（ ） 事業名（ ）
	助成年度（ ） 事業名（ ）
	助成年度（ ） 事業名（ ）
⑨ この事業に対する他の助成の有無 (申請中のものを含む)	☐ 有 ☒ 無
	有の場合は、助成名称(団体)及び助成額 助成名(団体名): 助成額: 円 ※新宿区の他の助成制度からの助成が決定した場合には、本助成金は受けられません。新宿区以外の団体からの助成金がある場合には、その金額を差し引いた額が本助成額になります。本助成金への申請後に、同事業で新宿区外の補助金へ申請される際は、必ずご相談ください。

収支予算書

費 目		予 算 額	内 訳
事業費	①使用料及び賃借料	58,200 円	レンタルオフィス新宿、対面イベント10回分 (平日1時間1,455円×4時間(準備撤収含)×10イベント)
	②消耗品及び印刷費	20,000 円	イベント告知用ポスター印刷A2(2,000円×10枚)
	③委託費	0 円	
	④講師謝礼	50,000 円	医療関係者・専門家等(5回×10,000円)
	⑤その他謝礼	70,000 円	個別相談対応相談員謝礼:5,000円×10回 イベント対応ボランティア謝礼20,000円(2,000円×各1人×10)
	⑥交通費	70,000 円	①対面イベント12回×スタッフ3人×1,000円=36,000 ②個別相談場所への移動30回×1,000円=30,000 ③打合せ・備品調達・その他調整業務4回×1,000円=4,000円
	⑦保険料	0 円	
	⑧その他諸経費	58,985 円	ZOOM Workplace Pro(年額サブスク契約23,985円)会議用イベント用プロジェクター代(35,000円)
	⑨感染症等対策経費	0 円	※上限額2万円以内(20,000)
	⑩人件費	93,750 円	※下記「事業費」の25%以内(109,062) 内訳 ①役員1(事務全般、広報、SNS担当) →月3.5h×10か月×時給1250円=43,750円 ②役員2(イベント予約、出欠管理担当) →月2.5h×10か月×時給1250円=31,250円 ③役員3(会計処理等担当) →月1.5h×10か月×時給1250円=18,750円
事業費(①から⑩の合計)		420,935 円	
⑪ファンドレイジングに関する経費		21,047 円	※事業費の5%以内(21,047) jimoty広告費上位表示オプション12000×2=24,000円 24,000円のうち2,953円は助成対象外事業費へ (イベント募集ページ等10回×2、上位表示させるもの。 当法人の主要広告媒体)
⑫助成対象経費 (事業費+⑪)		441,982 円	
⑬助成対象外経費		327,953 円	ホームページ制作費30,000円(予約・寄付・相談フォーム等) その他予備費25,000円(会議・イベント時軽飲食代等) ⑪ファンドレイジングに関する経費2,953円(助成対象外分)
事業総額		769,935 円	

収入区分	内 容	予 算 額	積 算 根 拠 (内 訳)
	㊦ 事業収入 (参加料、資料代等)	350,000 円	対面交流会 2 0 0 0 円× 1 0 名× 1 0 回 個別相談 5 0 0 0 円× 3 0 枠 (別紙：個別相談料妥当性の算定)
	㊧ 寄附金	57,000 円	
	㊨ 補助金等収入	0 円	
	㊩ 協働推進基金助成金	294,000 円	「㊧～㊨、㊪～㊫の合計」の2/3と「㊩」の合計 ※千円未満切り捨て
	㊬ 団体負担金	68,935 円	
	収入総額	769,935 円	